

# 瑞江第二中学校応援団実践報告書

## 1 校長及び代表者氏名

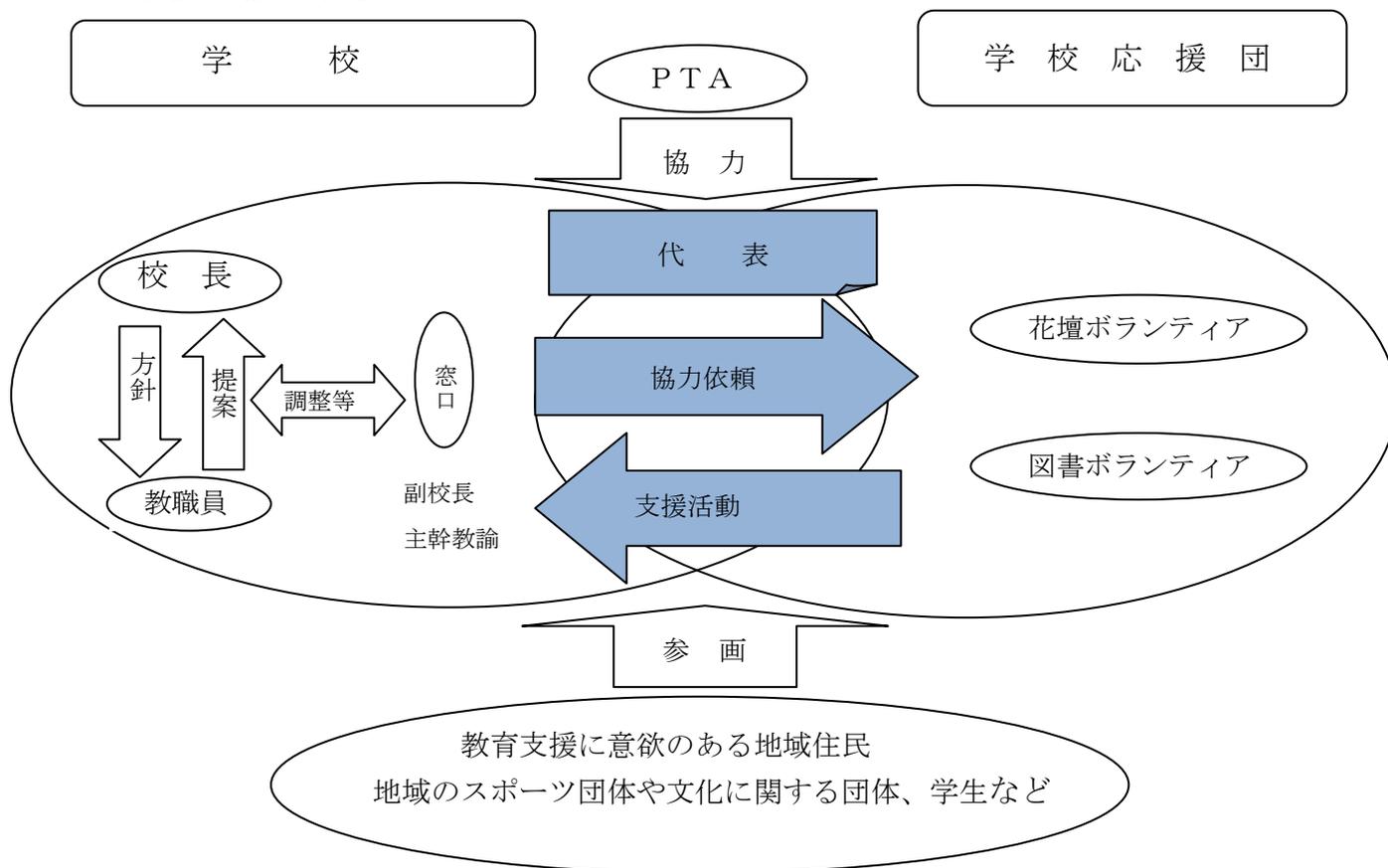
校長 片倉 元次

代表者 川原 晴久 (学校応援団コーディネータ)

## 2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
環境整備	花壇ボランティア	○枯れた草花の抜き取り ○土壌の整備 ○草花の植え込み ○雑草の除去 など学校花壇の整備全般
環境整備	図書ボランティア	○蔵書の整理および廃棄 ○書架の整理 ○本の修理 ○新書の管理 など学校図書館の整備全般
学習支援	ゲストティーチャー	○江戸川区伝統工芸の体験 ○小松菜農家の方による食育講話 ○助産婦さんによる命の尊さの講話

## 3 学校応援団組織図



## 4 今年度の成果と今後の課題

### <成果>

学校とコーディネータ、花壇ボランティア代表と図書ボランティア代表との連絡を密にしたことにより生徒やPTA委員との協働が進んだ。

- 花壇整備の活動では生徒会の美化委員とボランティアの生徒、PTAの校外委員の皆さんがPTA O B会員を中心とした花壇ボランティアの方々に指導を受けながら、一緒に汗を流すことで、学校が地域に支えられているという自覚や社会の一員であるということの役割意識を深めることができた。
- 図書室整備の活動では、PTAの成人委員の皆さんも加わり、書庫の整理や本の修理をしていただき、図書室の利用が活発になった。整理され利用しやすくなった図書室を使い、生徒たちが葉書サイズの推薦図書カードを作成し、全校生徒に図書の紹介をするなど本に親しむ姿勢をもつ生徒が増えた。

### <課題>

- 学校が必要とする活動をより明確にすること。
  - ・校長のリーダーシップの発揮
  - ・教員の応援団に対する意識向上と理解
  - ・地域住民への明確な協力依頼
- 応援団のネットワークの拡大
  - ・他校の応援団との情報共有
  - ・企業やNPOなどとの連携

## 5 代表より

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTA O B会の皆さんや同窓生とよく相談している。これからも学校との連携を一層密にしていきながら、教育支援に意欲のある方々を発掘していきたいと考えている。

また、開校当時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味（「静」ゾーンの校舎と「動」のゾーンのグラウンドとの線引きを意味する）と学校が開校以来つねに地域と共にあり、生徒、教職員、保護者、地域の皆さんの多くの努力、情熱に支えられて今があることを伝えていきたい。

学校応援団代表として花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と一緒に取り組めることを喜び、学校応援団の活動がより広く、活発になるよう代表として活動していきたい。

川原 晴久

## 6 校長より

「できることを できるときに できるところから」ということを念頭に置き、平成21年からPTA O Bの皆さんが中心となって、学校花壇の整備活動がスタートしました。現在では図書ボランティアの活動なども定着しています。また、ゲストティーチャーとして小松菜農家の方のお話や、江戸川区伝統工芸保存会の方々による技能の指導をいただき、確実にご支援の輪が広がっています。

今後は学校として取り組みたいことをさらに明確にお伝えしていきたいと思っております。地域ぐるみで子供たちを育てる体制が一層強固になっていきますよう、これからも瑞江二中への応援をよろしく願いいたします。

片倉 元次